

事前評価個表

| | |
|------|-----|
| 整理番号 | 9 6 |
|------|-----|

| | | | |
|---------|--------------------------------|--------|----------------|
| 地域（地区）名 | <small>おおよどかわ</small> 大淀川地域 | 事業名 | 森林環境保全整備事業 |
| 計画策定主体 | 宮崎県 | 対象市町村 | 宮崎市ほか7市町 |
| 事業実施期間 | H23 ~ H27（5年間） | 事業実施主体 | 市町、森林組合、森林所有者等 |

| | |
|-----------|---|
| 事業の概要・目的 | <p>大淀川流域森林計画区は159,527haで、このうち民有林が70,906ha(44%)、人工林面積が51,189ha(72%)となっている。また、人工林の8割をスギが占め、年齢別面積は9歳級をピークに8歳級以上の林分が66%を占めており、スギを主体とした人工林資源は収穫可能な時期を迎えている。</p> <p>しかしながら、森林資源が充実していく一方で、近年の木材価格の長期低迷や高齢化等による林業労働力の低下から、間伐等の保育管理が不十分な人工林が見受けられるようになり、このまま推移すると、森林の公益的機能の発揮にも支障をきたすことが懸念されることから、長伐期施業による資源循環を促進するため、大淀川地域森林環境保全整備計画を作成し、これに基づく森林整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、未植栽地の解消、森林に応じた伐採や植栽・保育管理を着実に実施することにより、水源かん養機能等、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。</p> <p>他産業との連携に関しては、本計画の地域は農林業が基幹産業であり、その多くは野菜・畜産・特用林産及び林業を取り入れた複合経営であることから、農林業の振興及び農林道の整備や施設の木造化等において、関係部局と連携を図っている。</p> |
| 事業内容・事業費 | <p>森林整備：13,873ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：2,773,432千円</p> |
| 費用対効果分析結果 | B/C = 3.40 |
| 評価結果 | <p>必要性：保育対象林分の状況、森林整備の緊急性から見て必要性が高い</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林の整備によって、森林の有する公益的機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産に有効である。</p> <p>本計画では、森林の有する多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p> |

便 益 集 計 表

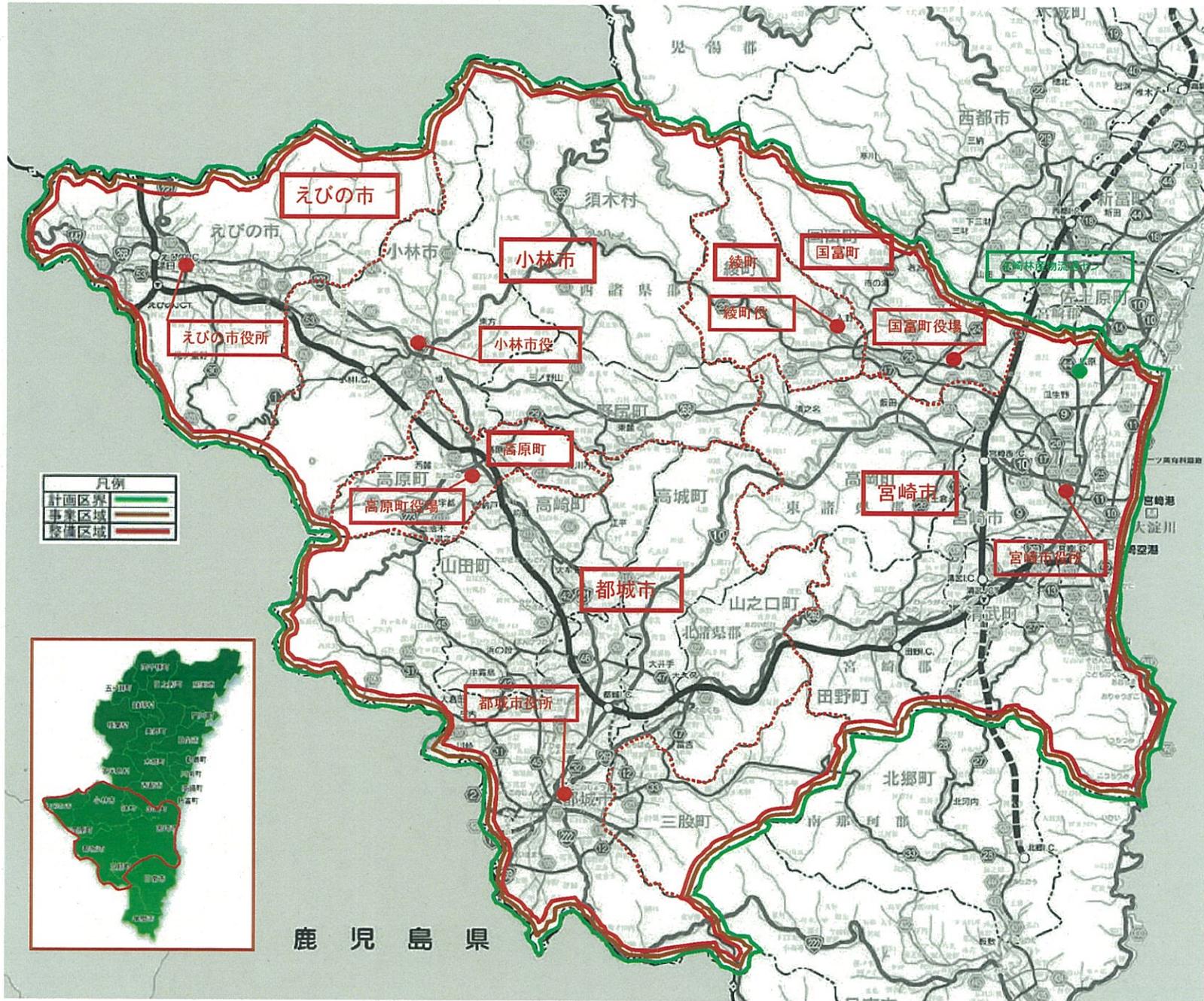
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 大淀川

宮崎県
 (単位: 千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------|--|------------|-----|
| 水源かん養便益 | 洪水防止便益 | 4,770,603 | |
| | 流域貯水便益 | 2,941,776 | |
| | 水質浄化便益 | 5,022,187 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 4,794,130 | |
| | 土砂崩壊防止便益 | 6,621 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 2,123,671 | |
| 木材生産便益 | 木材生産確保・促進便益 | 124,760 | |
| 総 便 益 (B) | | 19,783,748 | |
| 総 費 用 (C) | | 5,805,361 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{19,783,748}{5,805,361} = 3.40$ | | |

森林環境保全整備事業 大淀川地域（宮崎県） 概要図



事前評価個表

| | |
|------|----|
| 整理番号 | 97 |
|------|----|

| | | | |
|---------|-------------------------------|--------|------------------|
| 地域（地区）名 | <small>ひろとがわ</small> 広渡川地域 | 事業名 | 森林環境保全整備事業 |
| 計画策定主体 | 宮崎県 | 対象市町村 | 日南市ほか1市 |
| 事業実施期間 | H23～H27（5年間） | 事業実施主体 | 森林組合、林業公社、森林所有者等 |

| | |
|-----------|--|
| 事業の概要・目的 | <p>広渡川地域森林計画区の森林面積は64,870haで、このうち民有林が35,987ha(55%)、人工林面積が25,953ha(72%)となっている。また、人工林の9割をスギが占め、齢級別面積は10齢級をピークに9齢級以上の林分が55%を占めており、スギを主体とした人工林資源は収穫可能な時期を迎えている。</p> <p>しかしながら、森林資源が充実していく一方で、近年の木材価格の長期低迷や高齢化等による林業労働力の低下から、間伐等の保育管理が不十分な人工林が見受けられるようになり、このまま推移すると、森林の公益的機能の発揮にも支障をきたすことが懸念されることから、長伐期施業による資源循環を促進するため、大淀川地域森林環境保全整備計画を作成し、これに基づく森林整備を推進する必要がある。</p> <p>本計画に基づき、未植栽地の解消、森林に応じた伐採や植栽・保育管理を着実に実施することにより、水源かん養機能等、森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。</p> <p>他産業との連携に関しては、本計画の地域は農林業が基幹産業であり、その多くは野菜・畜産・特用林産及び林業を取り入れた複合経営であることから、農林業の振興及び農林道の整備や施設の木造化等において、関係部局と連携を図っている。</p> |
| 事業内容・事業費 | <p>森林整備：11,467ha 人工造林、下刈り、除伐、間伐、森林作業道等</p> <p>総事業費：1,994,256千円</p> |
| 費用対効果分析結果 | B/C = 3.54 |
| 評価結果 | <p>必要性：保育対象林分の状況、森林整備の緊急性から見て必要性が高い</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林の整備によって、森林の有する公益的機能の確保はもとより、将来の優良材の安定的生産に有効である。</p> <p>本計画では、森林の有する多面的機能を発揮するために必要な森林整備が適切に計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p> |

便 益 集 計 表

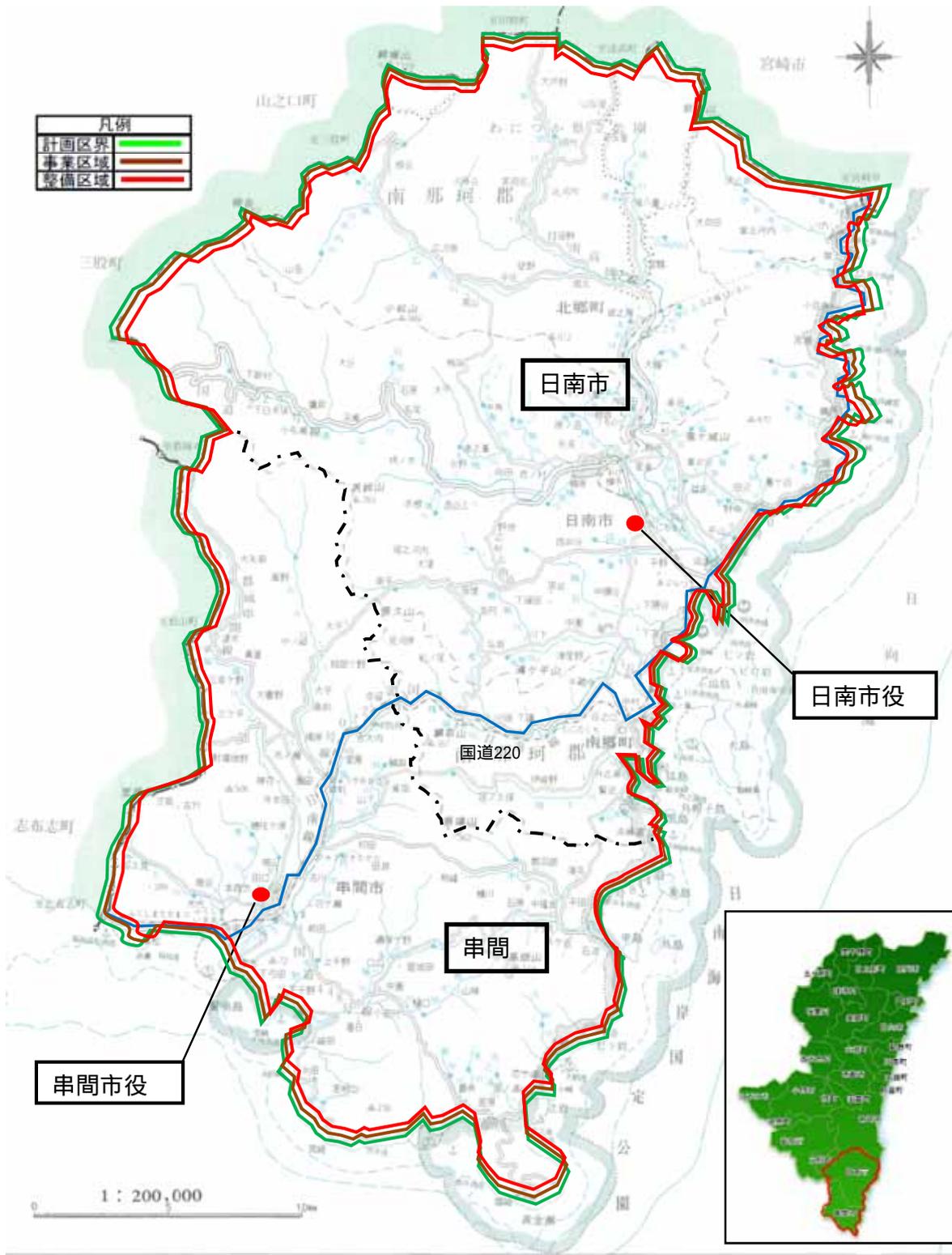
(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 広渡川

宮崎県
 (単位: 千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------|--|------------|-----|
| 水源かん養便益 | 洪水防止便益 | 4,327,171 | |
| | 流域貯水便益 | 2,576,450 | |
| | 水質浄化便益 | 4,398,504 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 4,398,494 | |
| | 土砂崩壊防止便益 | 6,301 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 1,763,186 | |
| 木材生産便益 | 木材生産確保・促進便益 | 26,838 | |
| 総 便 益 (B) | | 17,496,944 | |
| 総 費 用 (C) | | 4,933,763 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{17,496,944}{4,933,763} = 3.54$ | | |

森林環境保全整備事業 広渡川地域（宮崎県） 概要図



事前評価個表

| | |
|------|----|
| 整理番号 | 98 |
|------|----|

| | | | |
|---------|--------------|--------|------------------|
| 地域（地区）名 | ほくきつ 北薩地域 | 事業名 | 森林環境保全整備事業 |
| 計画策定主体 | 鹿児島県 | 対象市町村 | 薩摩川内市ほか5市町 |
| 事業実施期間 | H23～H27（5年間） | 事業実施主体 | 県，市町，森林組合，森林所有者等 |

| | |
|-----------|---|
| 事業の概要・目的 | <p>北薩地域森林計画区は、鹿児島県薩摩半島の北部と長島、甌島等の島からなり本計画区の北部には、国見岳等熊本県と境をなす山系が連なり、中央部には、紫尾山を主峰とする紫尾山系、南部には八重山の山系が連なっている。また、これらの山岳を源として多くの河川が東シナ海や八代海にそそぎ、川内平野や出水平野が広がるなど、豊かな自然を形成している。</p> <p>本計画区の総面積195,985haのうち、森林面積は128,033ha（森林率65%）であり、その内訳は国有林32,777ha（26%）、民有林が95,256ha（74%）となっている。</p> <p>民有林は、スギ、ヒノキを主体とした人工林が54,724ha（人工林率57%）であり、うち27%がⅦ齢級以下の若齢林であり、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>なお、Ⅷ零級以上の人工林が73%を占めるなど、資源の面では充実してきているものの、伐期を迎える林分も多く存在することから、適切な森林整備を図る必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林の配置や齢級構成に応じ森林整備を行うことによって森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p> <p>なお、他産業との連携等に関しては、農耕地の多くが森林に近接していることから、農林業の振興、農林道の整備において関係部局との連携を図ってきている。</p> |
| 事業内容・事業費 | <p>森林整備：7,523ha 人工造林，下刈り，枝打ち，除伐，間伐，森林作業道等</p> <p>総事業費：2,755,537千円</p> |
| 費用対効果分析結果 | B/C = 3.37 |
| 関係者の所見 | <p>必要性：保育対象林分の賦存状況，森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養，国土保全等の機能の確保はもとより，優良材の安定的生産にとって有効である。</p> <p>本計画では、森林の有する多面的機能の発揮に必要な適切な森林整備等が計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p> |

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
地域名: 北薩

鹿児島県
(単位: 千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------|---|-----------|-----|
| 水源かん養便益 | 洪水防止便益 | 1,650,533 | |
| | 流域貯水便益 | 663,196 | |
| | 水質浄化便益 | 1,132,208 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 1,406,197 | |
| | 土砂崩壊防止便益 | 61,290 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 1,482,788 | |
| 木材生産便益 | 木材生産確保・促進便益 | 2,584,543 | |
| 総 便 益 (B) | | 8,980,755 | |
| 総 費 用 (C) | | 2,660,281 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{8,980,755}{2,660,281} = 3.37$ | | |

獅子島

森林環境保全整備事業 北薩地域 (鹿児島県) 概要図

長島町

阿久根市

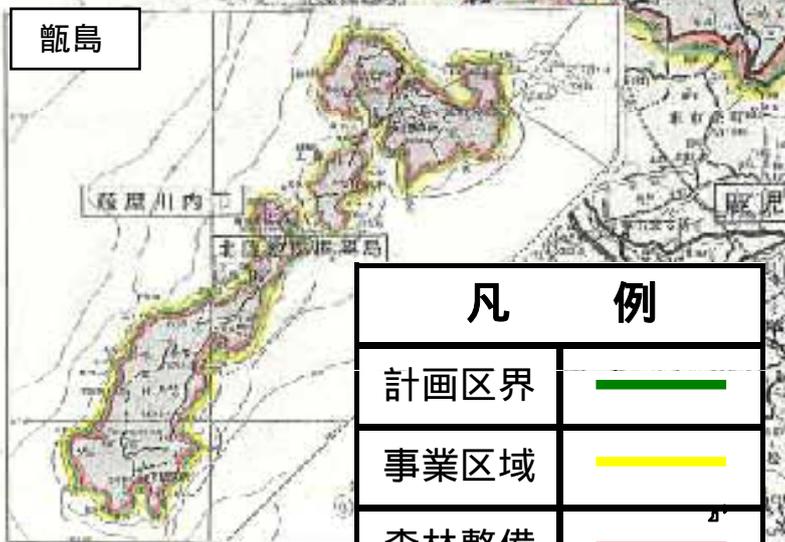
出水市

伊佐市

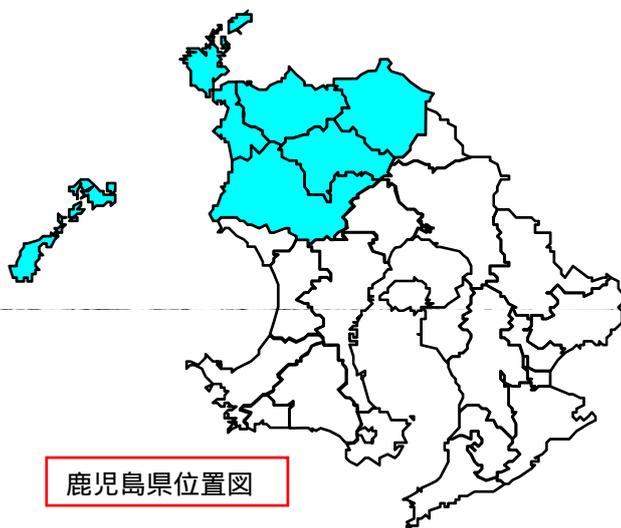
さつま町

薩摩川内市

甌島



| 凡 例 | |
|------|--|
| 計画区界 | |
| 事業区域 | |
| 森林整備 | |



鹿児島県位置図

事前評価個表

| | |
|------|----|
| 整理番号 | 99 |
|------|----|

| | | | |
|---------|----------------------------|--------|------------------|
| 地域（地区）名 | <small>あいら</small> 始良地域 | 事業名 | 森林環境保全整備事業 |
| 計画策定主体 | 鹿児島県 | 対象市町村 | 霧島市ほか2市町 |
| 事業実施期間 | H23 ~ H27（5年間） | 事業実施主体 | 県，市町，森林組合，森林所有者等 |

| | |
|-----------|---|
| 事業の概要・目的 | <p>始良地域森林計画区は、鹿児島県の中央から東北部に位置しており、本計画区の東北部には宮崎県との境をなす韓国岳等の霧島連山、西北部には国見岳や烏帽子岳を有し、南部は鹿児島湾に面している。また、これらの山岳を源として多くの河川が東シナ海や鹿児島湾にそそぎ、肥沃な平野が広がるなど、豊かな自然を形成している。</p> <p>本計画の総面積97,933haのうち、森林面積は66,026ha（森林率67%）であり、その内訳は、国有林11,645ha（18%）、民有林が54,381ha（82%）となっている。</p> <p>民有林は、スギ・ヒノキを主体とした人工林が37,672ha（人工林率69%）であり、うち32%が齢級以下の若齢林であり、適正な保育・間伐を必要とする林齢にあるが、近年の木材価格の低迷と林業従事者の高齢化や不況等から手入れが不十分な森林が見られるようになってきた。</p> <p>なお、齢級以上の人工林が68%を占めるなど、資源の面では充実してきているものの、伐期を迎える林分も多く存在することから、適切な森林整備を図る必要がある。</p> <p>本計画に基づき、森林の配置や齢級構成に応じ森林整備を行うことによって森林の有する多面的機能の発揮が可能となる。また、これらの整備に関する地元関係者の意欲は高く、コスト縮減を踏まえて実施することとしている。</p> <p>なお、他産業との連携等に関しては、農耕地の多くが森林に近接していることから、農林業の振興、農林道の整備において関係部局との連携を図ってきている。</p> |
| 事業内容・事業費 | <p>森林整備：5,806ha 人工造林，樹下植栽等，下刈り，枝打ち，除伐，間伐，森林作業道</p> <p>総事業費：2,104,537千円</p> |
| 費用対効果分析結果 | B/C = 4.53 |
| 関係者の所見 | <p>必要性：保育対象林分の賦存状況，森林整備の緊急性等から見て必要性が高い。</p> <p>効率性：投下する費用を上回る効果が見込まれることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>有効性：健全な森林づくり等によって水源かん養，国土保全等の機能の確保はもとより，優良材の安定的生産にとって有効である。</p> <p>本計画では、森林の有する多面的機能の発揮に必要な適切な森林整備等が計画されている。また、効率性、有効性も認められることから、森林環境保全整備事業計画として実施することが適当である。</p> |

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名: 森林環境保全整備事業
 地域名: 始良

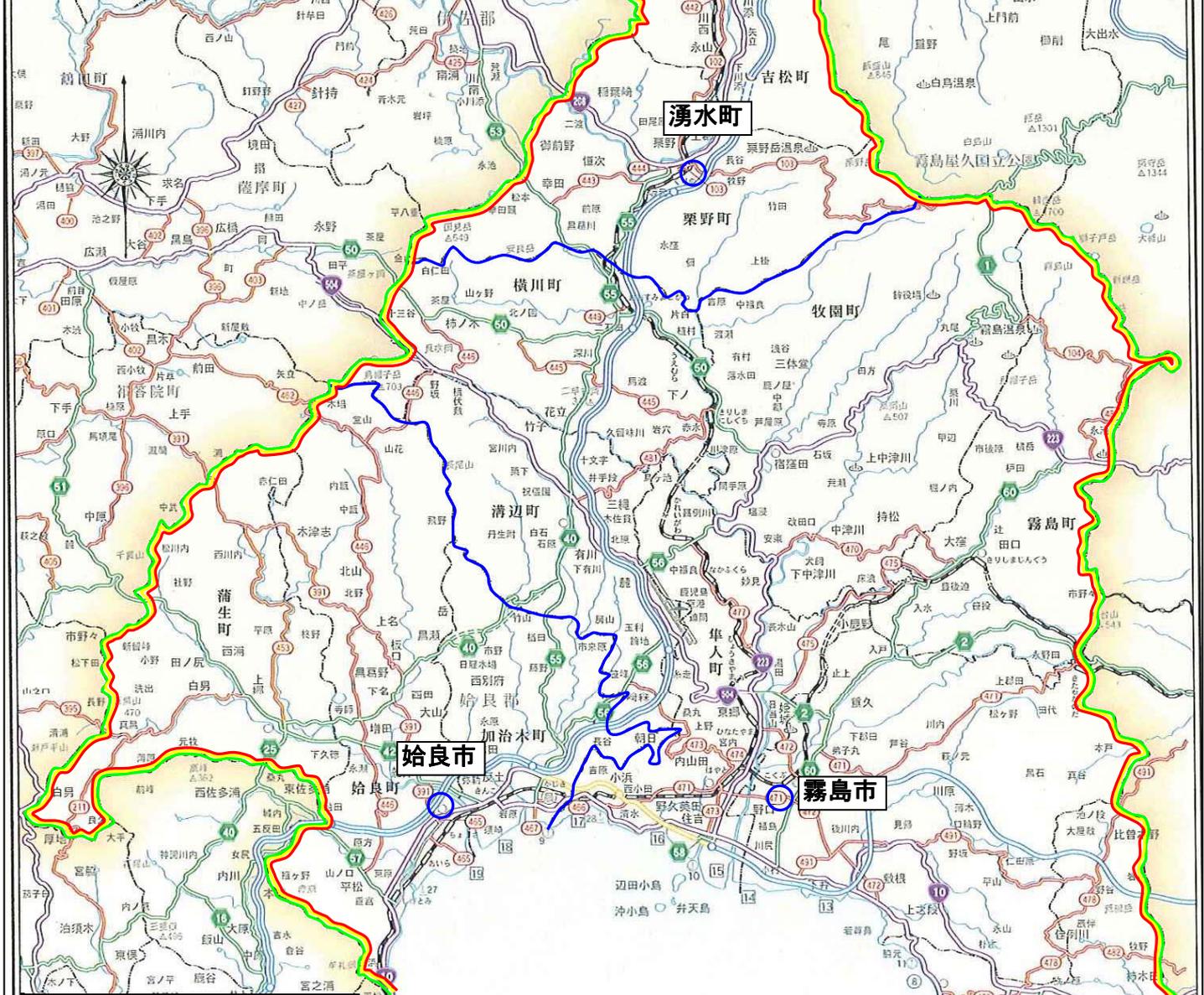
鹿児島県
 (単位: 千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------|--|------------|-----|
| 水源かん養便益 | 洪水防止便益 | 2,444,550 | |
| | 流域貯水便益 | 936,930 | |
| | 水質浄化便益 | 1,599,519 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 1,737,792 | |
| | 土砂崩壊防止便益 | 143,636 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 1,354,421 | |
| 木材生産便益 | 木材生産確保・促進便益 | 2,132,647 | |
| 総 便 益 (B) | | 10,349,495 | |
| 総 費 用 (C) | | 2,280,610 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{10,349,495}{2,280,610} = 4.53$ | | |

森林環境保全整備事業 始良地域 (鹿児島県) 概要図



| 凡 例 | |
|------|-----------|
| 九折線 | 一 一般国道 |
| 一 折線 | 二 主要地方道 |
| 一 折線 | 三 一般県道 |
| 一 折線 | 四 自転車道 |
| 一 折線 | 五 自動車道 |
| 一 折線 | 六 有料道路 |
| 一 折線 | 七 計画的道路 |
| 一 折線 | 八 その他の道路 |
| 一 折線 | 九 二級河川 |
| 一 折線 | 一〇 一級河川 |
| 一 折線 | 一一 港 |
| 一 折線 | 一二 漁港 |
| 一 折線 | 一三 空港 |
| 一 折線 | 一四 海岸保全区域 |
| 一 折線 | 一五 市界 |
| 一 折線 | 一六 町界 |
| 一 折線 | 一七 郡界 |
| 一 折線 | 一八 農林事務所界 |
| 一 折線 | 一九 林業集積場 |
| 一 折線 | 二〇 林道 |
| 一 折線 | 二一 三角点 |



| 凡 例 | |
|------|----|
| 計画区界 | —— |
| 事業区域 | —— |
| 森林整備 | —— |

